

編集後記

大学に所属していると、大学や病院機能評価のために論文数は重要で、日々、医局員に発破をかけなければなりません。もちろん論文を書いてもアクセプトされなければ始まりませんので、その書き方が重要となってきます。昨年、金原出版から出版された『必ずアクセプトされる医学英語論文 完全攻略 50 の鉄則』（康永秀生 著）は名著であり、論文を書く側にとっても、またそれを査読する側にとっても、大変有益な内容となっています。英語論文をこれから書こうという諸氏には、是非本書を通読していただきたいと思います。また、これより少し遅れて『なぜあなたは論文が書けないのか？』（佐藤雅昭 著）が他社から出版されました。その書名にもあるように、本書は論文が書けない理由を考えるとところから始まっています。

本書を見て、医局員には論文を書けない（書かない）理由があるのではと考え、メールでアンケート調査を行ってみました。アンケート内容はごく簡単で、一つ目の質問は「過去3年間に impact factor のついた雑誌にアクセプトされたか？」（yes/no の2択）、二つ目の質問は、「Noであればなぜ書けなかったのか？」というものです。二つ目の質問では、1) 書き方が分からない、2) 時間が無い、3) 書く意義が分からない、4) その他（理由の自由記載）の4択としました。結果は、論文を書いていない人で、“書き方が分からない”と答えた人はほとんどいないというものでした。つまり、論文が書けない理由は、書き方を知らないだけではなかったようです。また、簡単なアンケート調査にもかかわらず、論文を書いていない人は返信が明らかに遅いことも分かりました。アンケート返信までに要

した時間は、論文を書いている人との間に統計学的有意差を認めました。この要因に関しては、もう少し詳細な検討が必要です。

ところで先般、国立がん研究センターから、がんと診断された人が治療によってどの程度救えたかを示す「5年相対生存率」が、全国のがん治療拠点病院別に初めて公表されました。肺がんの最も高い5年生存率が68.9%だったのに対し、最も低いもので2.3%、また肝臓がんでも71.6%から15.8%と大きな開きがありました。発表会見でも述べられていたように、患者背景は病院によって様々であり、生存率が各病院の優劣を示すものではありません。しかし、一律に数値が公表されることで、これらが病院の実力と受け止められることは否めません。このような情報公開の流れは、整形外科の分野でも今後確実に進んで行くものと思われます。

さて、今回の増大号の特集テーマは、井樋栄二先生ご企画の「肩関節外科の進歩」です。全25本の増大号企画で、今回は特例として特集論文のみで構成されています。内容は、腱板断裂に対する治療から外傷治療まで多岐にわたります。現在、肩関節の手術治療の多くは鏡視下手術に移行し、定型的な症例に対する手術手技は確立し、その治療成績はかなり向上したと思います。しかし一次修復不能な広範囲腱板断裂や骨欠損のある前方脱臼などに対しては、その治療成績を向上させるために様々な工夫が必要です。私も本特集号を熟読し、きたる情報公開時代に備えたいと思います。

（石橋恭之）

「整形・災害外科」第60巻 第10号（9月増大号） 2017年9月1日発行（毎月1回1日発行） 定価（本体4,400円＋税） 年間購読料金 定価（本体39,400円＋税） 〔年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕 〔年間予約購読者に限り送料無料〕	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14 TEL 03 (3811) 7165〔編集室直通〕 TEL 03 (3811) 7184〔営業部直通〕 FAX 03 (3813) 0288 http://www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 広告申込先 福田商店 TEL 06 (6941) 5600
---	---

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、二次的著作物の利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <（社）出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、（社）出版者著作権管理機構（電話 03-3513-6969、FAX 03-3513-6979、e-mail:info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。